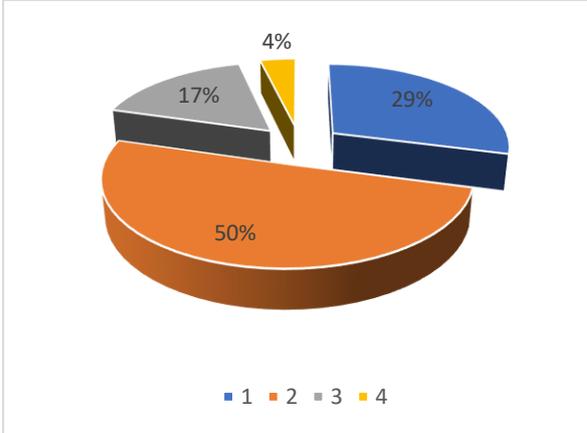


下諏訪南小学校 令和5年度 外国語活動に関するアンケート

1 保護者による学校自己評価より



お子さんは、楽しく英語を学習していると思われませんか。

- 1 そう思う 29%
- 2 どちらかと言えばそう思う 50%
- 3 どちらかと言えばそう思わない 17%
- 4 そう思わない 4%

【考察】

そう思う、どちらかと言えばそう思う、を合わせて79%となりました。例年の数値よりも低い結果となりましたが、多くのご家庭で、児童が楽しく英語学習に取り組んでいるとの評価をいただきました。授業では、発音することや英語を使ってやりとりをすることに、やや抵抗がある児童が見られるので、普段の授業やイングリッシュチャレンジデーでのゲーム活動を通して、自分を表現していく事への抵抗感を減らしていける授業作りをしていきたいと思えます。

2 教職員による学校自己評価より

1 成果

- ・1年生では、チャンツや歌、ゲームなどで英語に慣れ親しむ時間が十分取られているので、耳から自然と英語が体になじんでいくように感じる。保育園から英語に親しむ環境や、ALTの先生の英語に触れられる授業が毎週設けられていることも大きい。
- ・生活の中で「Here you are.」「It's cloudy!」など、授業で扱った表現を積極的に使う児童の姿がある。
- ・低学年で英語に慣れ親しむ活動を重ねることで、3年生からの外国語活動に対しても抵抗感を持つ子が少なく、1・2年生の延長で英語を使ったコミュニケーションやアクティビティを楽しんでいる姿が多く見られる。

2 課題

- ・中高学年では教科書を扱うため、ゲームなどのアクティビティを有効に取り入れないと授業をつまらなく感じてしまう児童が一定数見られる。
- ・学年が低いうちは、楽しむことが目的に感じられるからかほとんどの子が「英語が好き」と答えるが、学年が上がるにつれて「できる・できない」「わかる・わからない」の差が増えてきて、「英語が苦手」という感覚の児童が増えているように思える。

【資料】 イングリッシュチャレンジデーとは



【English Challenge Day ~ R5.11.10】

日頃英語を学習している子どもたちが、ELT とのあいさつや会話を楽しんだり、説明を聞いたりする活動を通して、これまでの学習が生きてコミュニケーションができる体験をおこない、これからの英語学習への動機付けをすることを目標にしています。

毎年、体育館を会場に、全学年参加の体験活動として位置づけています。